

地区懇談会での主な意見等の概要

会場名 帯広の森 →帯広の森コミセン 図書館 →図書館
 とかちプラザ →とかちプラザ 啓北 →啓北コミセン
 西帯広 →西帯広コミセン 鉄南 →鉄南コミセン
 大正 →大正農業者トレーニングセンター

項目	会場	参加者の意見等	市長の発言等
町内会加入率低下の対策	帯広の森	前に住んでいた町内会では、住民みんなが参加する行事がたくさんありました。今の町内会には、そうした行事が少ないです。町内会の加入率の低下が問題になっています。活動自体も段々と衰退してきており、何らかの対策が必要ではないか。	想定していなかった環境変化があり、色々な問題・課題が発生していると思います。従来は、職と住が近いこともあって、町内会のコミュニティが機能していましたが、車社会になり住宅から離れたところで働けるようになった時に、仕事での人間関係が中心になってきていると感じています。そうした変化が少しずつ起きてきた中で、これからコミュニティをどうやってつくっていくのか、ご指摘のとおり、これまでの延長では無理だと思います。市民の皆さんと市が、問題意識を共有しながら一緒に考えていく必要があると思います。
まちなかの公園の環境について	図書館	自分の家の周りでは、小さい子を連れて情緒豊かな散歩がしにくいです。小さい公園はありますが、手入れが行き届いていない感じがします。公園があってもすぐそばに住宅が建っており、見られている感が出て、落ち着ける公園が少ないです。中央公園も噴水が動いておらず、木も生え放題の印象があります。周囲の自然は豊かなのに、まちなかの公園は残念な場所が多い印象があります。	帯広市の一人当たりの公園面積は、高い数字になっていますが、緑地として位置づけられている公園が、利用しにくいと意味がありません。小さな子どもを連れてゆっくりできる、お年寄りが椅子に座って何時間もじっと帯広のことを考えられるような、そんな公園が求められているのかもしれない。すぐには難しいですが、そうした空間が増えるように、知恵を絞って考えていくことが必要だと思います。
馬を活用した畜大との連携について	とかちプラザ	馬が好きで、前から北海道に遊びに来ていましたが、自分と家族が元気なうちに好きなことをやりたいと思い、最近、道外から引越してきました。私が北海道の中で帯広市を選んだ理由は、まず、馬の文化があることです。が、先日、市民大学講座の「いま、馬を考える」という講座に参加しました。その中で畜大と協力して馬のいるまちづくりをしていると聞きましたが、具体的にはどんなことをやっているのでしょうか。	もともとこの地域は、馬を使ってまちを開拓をしてきており、生活の中に馬と一緒になっていました。そのことが「ばんえい競馬」という形で残っています。この地域の馬は農耕馬、働く馬たちであり、その文化を引き継いでいく活動をしています。今、畜大と一緒にやっているのは、ホースセラピーという取り組みです。馬には癒しの効果があり、過去から馬との接点を持っていたこの地域で取組を拡大していくため、その分野の先生たちと連携してセミナーなどを開催しています。また、障害をお持ちのお子さんたちに、馬に触れてもらえる機会を定期的に設けるようなことも行っています。今の時代の文化様式になっても、まだ十勝・帯広に行くことが日常的に存在していることを知ってもらえるよう、競馬場の横に馬とのふれあい広場もつくっています。まだ、始めたばかりですが、畜大と連携しながら馬文化についての講座を開催するなど、取り組みを広げていきたいと考えています。
危険区域の周知について	啓北	帯広の西北地区に住んでいますが、水害について非常に心配を持っています。重要水防箇所がホームページに載っていますが、何が危険なのかは載っていません。ここは危険だということは分かるが、どんな要素でそこが危険となっているのかが分からない。そうしたことを地域住民に知らせると、不安を煽ることになるかもしれませんが、しっかり知識を身につけて防災対策を進める必要があるのではないかと思います。	洪水の浸水想定については、国や道の堤防の管理状況に影響を受けており、なかなかはっきりと要因は分からない部分もあり、どこで決壊するのか、想定しにくい現状があります。そうした情報は一番知りたい部分だと思いますが、現状では難しいと考えています。今後、そうした情報を含め、出来るだけ地域の皆さんにお知らせ出来るよう、検討していきます。
観光客向けの交通情報アプリ	啓北	市の取り組みではないかもしれませんが、コンパクトに観光できる手法を積極的に支援していただきたい。今は便利なアプリが開発されていて、どこでバスに乗れば、目的地に行けるか分かるようになっていますが、その先は分かりづらい。時刻表一つにしても、まちなかまで行こうと思ってアプリで検索すると、まず駅まで徒歩で行って、駅から電車に乗ってくださいと表示されますが、目の前にはバス停もありません。そうした情報を民間の会社に積極的に提供していただく方法があればいいと思います。	交通の不便さについては、ソフトの開発で解決できることが、これから色々出てくると思います。十勝・帯広に来られる観光客、海外の方には、すでに他の地域でそうしたアプリケーションを使って便利さを分かっている方もいます。その方々が、この地域でそのサービスを受けられないと、不満を感じるのではないかと思います。特に観光の切り口から、そうしたソフトの開発などの議論をしていく必要があると思います。
市役所の横断した部署連携	西帯広	市役所は縦割り組織でいくつもの部に分かれているため、話がなかなか通じない。横につなげてくれる部署があれば、市民はもっと相談しやすくなると思う。	一時期、「すぐやる課」という組織が流行りましたが、最近は聞かなくなりました。それは、組織としてずっと維持していくことが大変だからだと思います。やはり、最初に対応した課が真剣に動くことが大切です。「縦割りを全部なくして横串を通せ」と言ってもすぐには無理ですが、相談を受ける側の職員が、市の組織を一番、分かっているの、想像力を働かせて動かなくてはなりません。組織を見直すことも必要ですが、どちらかというと、まずそれぞれの部署がしっかり動くことが必要だと考えています。
コンビニ交付の整備	鉄南	マイナンバー制度が始まりますが、帯広市で導入された時に、平成28年度からで構いませんが、コンビニなどで時間外、例えば早朝の5時や夜の9時でも印鑑証明や戸籍が取得できるようにしてほしいです。他町村はご存知の通り、1週間のうち1日だけ、夜の7時まで取得できます。音更町ですべてにコンビニ交付をしています。帯広市でも過去の議会の中で質問が出ていたようですが、マイナンバー制度が導入されたら、早急にコンビニ交付の整備をしていただき、市民の利便性を向上してほしい。	コンビニ交付については、議会で何度も議論されています。どのくらいの方が利用されるのか、費用対効果の議論をしています。住民票の交付は主に市庁舎で行っていますが、それ以外では川西・大正支所、コミセンでも交付しています。それぞれの館の休館日を除く平日のほか、土曜日も交付しており、これまでは、その体制を維持してきました。交付システムの構築には、維持費も含めて費用が発生することもあり、今後引き続き検討していきたいと考えています。
TPPへの対応	大正	TPPが心配です。政府の交渉の状況を見ると、農業分野で外国に譲った部分が非常に多いと受け止めています。確かに政府の言うように強い農業を目指していかなければならないと思いますが、今までも自分たちとしては取り組んでいるため、これからどのような心構えが必要になるか、考える必要があると思います。	TPPに関して、国に対してこれまで継続して情報提供を求めてきました。報道では合意したと聞いていますが、この数年間、情報をあまりいただけず、今も、内容が分からない部分が多くあります。問題は、それに対する対策が、国民の納得感を得られるものかどうかということです。我々の戦いはこれから始まると感じています。農業で存在感を持っている十勝・帯広として、しっかりメッセージを出していかなければならない。そのためには、決まったことやその影響について明確にしていかなければ、話が進まないと思っています。いただいた情報をきちんと咀嚼して、地域として言うべきことを言っていくことが必要だと感じています。